僕が見つけた雲

小川空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕が見つけた雲

【Nコード】

N3972G

【作者名】

小川空

【あらすじ】

”雲”がこの世界から消えて70年。理由は不明。主人公はその世界で悩みを抱えて生きていた。”雲”それを合言葉に物語は動き出す。

第一話 動き出す時間

空を見ている。

空は大きいと思った。

でも何も空にはない。

青く広がった空の海があるだけ。

今日も”くも”はない。

”くも”は70年前、僕らの住む地球から消えた。

”くも”のは”雲”と漢字で書くということは誰でも知っている。

たぶん、全国の山田さんも、加藤さんも、鬼塚さんも知っている。

写真でなら見たことがある。

ぜんぜん写真は迫力ない。

なぜ”雲”がなくなったのか。

わからない。学者にもわからない。

水があれば”雲”はあるはず。

それなのに消えた。

今日も空を見ている。

今日は風が気持ちいい。

僕の肩まである長い髪がゆれる。

”雲”は今日もない。

僕いつも一人で毎日3〜4時間空を見ている。

僕がいるこの原っぱに人は来ない。

なぜなのかな。僕が聞きたい。

僕の時間は止まってるのかな。
何でいつも僕は空を見てるんだろう
みんな消えちまえばいいのに。
すべて。空以外。

死んだおじいちゃんが言ってた。

「雲”はでかいぞ。」

だからどうした。くたばれよ。と想ってたら案の定死んだ。

今日は雨だ。

もういいと思った。

十分だ。

未練はない。

僕は出かける。。

”雲”のある世界へ。

雨にぬれている。

寒い。

でももうすこしでそんなことは感じなくなる。

ここは思い出の場所。

学校の屋上。

始まりの場所だった。

終わりの場所にもなるだろう。

さあ”雲”に会いに行こう。

さようなら。。世界。思い出をありがとう。つらかったけど。

「なにしてんの。ちょっと。待ちなよ。あたしが先だから。」

後ろを振り返ると長い髪の背の低い女の子がいた。

一瞬、息が止まる。

「雲・・・なのか？」

止まっていた僕の時間。

今、動き出した。

第一話 動き出す時間（後書き）

”雲”

物語が始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3972g/>

僕が見つけた雲

2010年11月21日15時46分発行